



サトリの ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗越谷布教所 源妙寺 国内開教師
渡邊源昇さん

第54回



小さいお寺ならではの活動で
地域に縁を広げていきたい

わたなべ・げんしょう 1987年生まれ、長崎県出身。15歳で日蓮宗総本山身延山久遠寺の門を叩き、身延山高校へ進学。2006年、立正大学入学とともに東京・堀之内妙法寺にて4年間の修行。2014年に2人目の日蓮宗国内開教師に就任し、越谷布教所を設立。／埼玉県越谷市赤山町2-176-19 ☎048-961-8842 <http://nichirenshu-koshigaya.com>

私は長崎市の一般家庭に生まれ育ちました。祖父母が熱心に日蓮宗を信仰していたこともあり、菩提寺の住職がとてかわいがってくださり、子どものころからお寺は身近な存在でした。
中学生になると菩提寺にはなかなか足を運ばなくなりましたが、同級生のお父さんが日蓮宗の僧侶で、今度はそのお寺に通うようになりました。そんなとき、その住職から「出家しないか」というお話をいただきました。住職の姿を間近で見ている私は「人の気持ちを変える、こんな大人になりたい」と思いました。

た。自分に初めてやりたいことが見つかったという思い。子どものころに植えられた「信仰」という種がポツと咲いたような気がしました。私の返事は「出家します」。中3の夏のことでした。

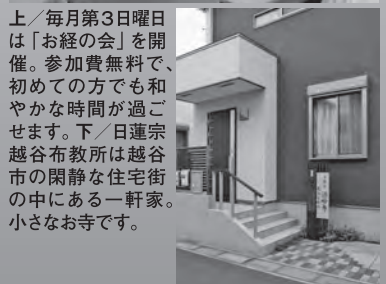
両親も私の決意を応援してくれたので、高校から日蓮宗総本山、身延山へ。

高校へ通いながらの修行生活は本当に厳しいものでした。朝4時に起これ、水をかぶって掃除。1年生はトイレを素手で掃除するので。最初のころは「雑巾を貸してくれよ」と思ったものでした。

しかし1年が過ぎたころから、感謝の気持ちが生れました。今まで当たり前だと思っていたことが、実はありがたいことだったのだ。トイレ掃除ひとつから、私は大切なことを教えられるのです。

国内開教師第2号として 小さなお寺をスタート

大学卒業後は2つのお寺でお勤めさせていただきました。26歳のとき、日蓮宗国内開教師の募集を知りました。国内開教師とは、日蓮宗寺院の少ない地域に赴き、自分でお寺を構え、布教活動を行うのが任務。私は話を聞いてワクワクしました。すぐに応募し、面接などを経て2014年、2人目の国内開教師となりました。



日曜日を開放し、和宗家街にあり、お経の料も過日開教師の住居が、お経の時間下所は越谷市にある小さなお寺です。

賃貸の一軒家を借り、布教所をスタート。開所から約8か月、悩み相談をはじめ、ご法事やご祈願に足を運んでくださる方も増えてきました。私は悩みを聞いたりしながら一緒に学ばせていただいています。このお寺で一緒に成長していく……今まさにその喜びを肌で感じ、感謝の毎日です。訪れるみなさまの笑顔が私のなによりのお宝です。

目指すのは明るく元気な 地域に開かれたお寺

世の中には悩みや苦しみがたくさんあります。ここに足を運ぶことでみなさまが前向きに幸せになつてほしい、というのが私の願いです。このお寺が、みなさまが集まるコミュニティの場所として縁を広げ、苦しみから学んで楽しむへと変えてくれるお手伝いの場になれば、それを一般のみなさまにわかりやすくお伝えするのが、一般家庭から出家した私の喜びでありお役目だと思っています。